

エレベーター

■エレベーターの現状の問題点 1

エレベーターへの案内	駅行きエレベーターの案内が無い（空港外にしかない）
	エレベーター横の観葉植物でエレベーターが隠れてしまう
	1階のエレベーターの表示がわかりづらい
	エレベーターがわかりづらい案内スタンドを置く場所を要検討
	エレベーターへの誘導が分かりにくい
	エレベーターの場所が分かりにくい



<短期的な解決の方向性>

- エレベーターへの案内が無い箇所、わかりづらい箇所を点検する
- 観葉植物や備品等で案内が隠れてしまっている場合は、案内が隠れないかつユーザーの移動動線に被らない場所へ移動をする

<中長期的な解決の方向性>

- エレベーターを設ける場合は、誰もが利用しやすいように、建築物の中でなるべく分かりやすい位置に設け、案内表示を適切に設置する
- エレベーターの設置位置がわかるよう建物全体の案内図に示す。その際、視覚障害者等視覚情報が伝わりにくい人にも情報が伝えられる表示方法とする
※案内の表示方法については「案内表示」を参照

■エレベーターの現状の問題点 2

エレベーター内設備	エレベーターの操作板がわかりづらい
	非常時の電話の高さが高い
	非常ボタンの位置が高い
	ボタンが押しづらい（出ていると良い）
	エレベーター内のボタンが指先が不自由だと、押し込むタイプで小さいボタンなので押しづらい
	エレベーターの上下がわからない
	エレベーター段差ある。傾斜あると大変
	エレベーターで上か下かどちらに行くか案内がなかった



<短期的な解決の方向性>

- イベント当日はエレベーターを利用する人が多いことが見込まれる。エレベーター付近へもスタッフを配置し移動の際のサポートを行う

<中長期的な解決の方向性>

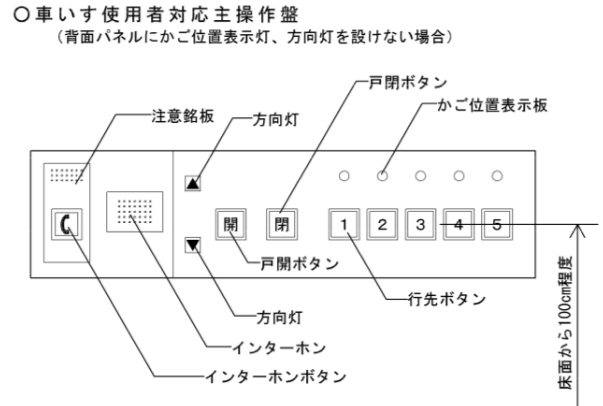
- エレベーターの設計標準に基づき改善・改修すること
- 劇場等一度に多くの車いす使用者が集中することが想定される施設では稼働力が低下する時間帯があるため、エレベーターのかごの大きさ、設置数、配置等を十分に検討する。
→操作盤については次ページ参照

エレベーター

(操作盤について)

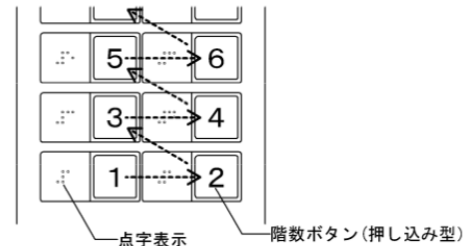
- ①車いす使用者対応の主操作盤、副操作盤
 - かご内で転回しにくい車いす使用者の操作を考慮し、かご中央あたりの左右の壁に車いす使用者対応の主操作盤、副操作盤を設ける
 - 設置位置は、車いす使用者の手の届く範囲を考慮し、高さは100cm程度が望ましい。また、極端にかごの奥や手前に設けないものとする
 - 主・副操作盤については次の機能及び設備を有することが望ましい。
 - イ) 主・副操作盤の行き先ボタンを操作することにより、戸の開放時間が通常より長くなる機能。戸が開いている時間は10秒程度が望ましい
 - ロ) 主操作盤にはインターホンを設ける
- ②操作盤における視覚障害者への配慮
 - かご内の立位で使用する操作盤の各ボタンに、点字表示を行う
 - タッチセンサー式のボタンは、視覚障害者には押したか否か認知が難しく、誤って押す可能性があるため、使用しないことが望ましい
 - 操作盤の取付位置、配列、ボタンの形状、使い方等を統一することが望ましい
 - ボタンに階数を浮き彫り表示する等の工夫が望ましい
 - ボタンはボタン部分と周辺部分とのコントラストを十分に確保することが望ましい

エレベーター 操作盤仕様 (例)



○階数ボタン

- ・階数ボタンは浮彫階数表示が望ましい
- ・階数ボタンが2列になる場合は千鳥配列が望ましい



■エレベーターの現状の問題点3

イベント時のオペレーション エレベーター何台も一度にうまく積めるフォローを



<短期的な解決の方向性>

- イベント当日はエレベーターを利用する人が多いことが見込まれる。エレベーター付近にスタッフを配置し移動の際のサポートを行う
- エレベーターの設置台数が限られている場合、荷物の運搬用等に使用しているエレベーターが使用可能であれば柔軟に臨機応変に当日のみ運用を検討する